



LOUISIANA NEW ORLEANS SALES GUIDE

ルイジアナ州 & ニューオリンズ セールスガイド





オークアレイ・プランテーションの並木のアプローチ

年間4億6000万トンに及ぶ泥土をミシシッピ川が悠久の時をかけて運び築いた広大で肥沃な湿地帯。そこには稀有な生態系が生まれ、50万エーカーに及ぶ野生動物保護区を擁する。それがルイジアナ州である。スペイン、フランス、イギリス、カナダ、アフリカ、カリブ海そしてアメリカの歴史、文化が絡み合い、人びとはジャズやブルース、ケイジャンやザディコなどの音楽を生み、ガンボやジャンバラヤなどの料理という固有の文化を育んだ。栄枯盛衰を映してミシシッピの川辺にたたずむプランテーション・ハウスが語りかけるのは、ルイジアナというアメリカの異郷の不思議であろう。



愛くるしい
アリゲーターの
赤ちゃん



コーヒーでマリネして焼き上げたラムのリップ



ザディコ・ダンスを盛り上げるジーノの演奏

食の都、ニューオリンズ

Taste of New Orleans

世界の料理が味わえるニューオリンズだが、土地の味と言えばクレオールとケイジャンの料理。それは同時にルイジアナの民族、文化を意味する言葉でもある。クレオールとは植民地で生まれたフランスやスペインの貴族とその子孫を指し、スペイン語の「クリオーリョ」に由来する。黒人との混血にも用いられて混用される。一方英仏戦争の結果、カナダ東部から移住し、バイユー地帯で主に農・漁業に従事するフランス系の人々はケイジャンと呼ばれ、ともに土地の食材を活かしたクレオールとケイジャンの料理が誕生した。ガンボやジャンバラヤ、レッドビーン&ライス、エトウフェーといった料理の人気の根強い一方、モダンな料理への挑戦も続く。



ルイジアナの味を気軽に楽しむ



ガンボ、ルイジアナで必ず食べたい料理

- Arnaud's / www.arnauds.com**
 風格のあるクレオール料理の老舗。人気のジャズ・ビストロとマルディ・グラ衣装の博物館を併設。
- Court of Two Sisters / www.courtoftwosisters.com**
 ジャズ・ブランチで有名なクレオール料理の店。ピアノ・バーがテネシー・ウィリアムズのお好みだった。
- Emeril's / www.emerilsrestaurants.com**
 シェフのエメリルが展開する有名レストランの旗艦店。料理はヌーベル・クレオール。
- Tableau / www.tableaufrenchquarter.com**
 植民地総督の家を改装し、パティオやベランダのテラスもあり、料理はクレオール。シアターなども備えている。
- The Palm Court Jazz Cafe / www.palmcourtjazzcafe.com**
 フレンチ・クォーターにあるジャズカフェ。ニューオリンズの伝統的料理を食べながら、ジャズの生演奏を楽しむ。

音楽の街…

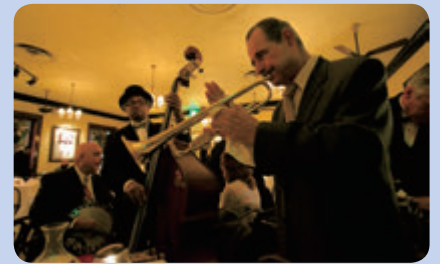
Jazz, Blues, Cajun, Zydeco and more

料理と並んでルイジアナの文化を特徴づけている音楽。日曜日にコンゴ・スクエアに集まった黒人たちは手作りの楽器で楽しんでいたが、黒人霊歌などの影響を受けながらジャズへと発展した。一方、ルイジアナ・バイユーに移り住んだケイジャンたちの間で生まれたのがケイジャン音楽で、フィドルやドイツ移民がもたらしたアコーディオン、洗濯板が原型のラブボードなどが使われる。ケイジャン音楽にブルースやカリブの黒人音楽の要素が加わったのがザディコ。ともにフランス語が多く使われ、人びとの生活に密着した音楽は陽気だが、どこか哀愁を帯びている。

ライブやCDの情報はOff Beatという無料の月刊音楽情報誌で得られる。



街のいたるところでパレードが行われる



音楽底辺の厚さを感じさせる吹奏楽隊



ストリートミュージシャンもルイジアナを彩る



ロック、ブルースと音楽の層が厚い

ショッピング

Shopping

川岸のフレンチ・マーケットFrench Marketは、食事のできるカウンターや食品、香辛料、装飾雑貨などの店が並ぶ人気のスポット。ビュ・カレにはロイヤル通りを中心にアンティークの店やアート・ギャラリーが多い。川沿いにはオープンしたばかりの、リバーウォーク・マーケットプレイス・アウトレット・コレクションをはじめ、キャナル・プレイス、ジャクスなどのショッピングモールがある。

旧造幣局の裏から北に延びるフレンチメン通りFrenchmen St.は、古いニューオリンズの佇まいをとどめ、土地っ子に人気のショッピングやナイトライフのスポットが点在する。ガーデン・ディストリクトのマガジン通りMagazine St.は、アンティークやアートのギャラリー、レストランが多い。

www.riverwalkneworleans.com



完成したばかりのアウトレット・コレクション



川沿いにあり、眺めもよい(アウトレット・コレクション)



ニューオリンズの歩き方

ニューオリンズ観光の中心ビュ・カレ(フレンチ・クォーター)はおよそ6×12ブロックで、見所は徒歩圏内にある。CBDやガーデン・ディストリクトなどへ足を延ばしたり、観光ポイントを効率よく回るのに便利なオープン・トップ2階建のシティ・サイトシーイング・バスCity Sightseeing Busがある。ルートを30分間隔で回っており、各ストップでの乗り降り自由。日本語も聞けるイヤホンでのガイド付きで1日券は大人29\$、子ども10\$。**www.bus-vision.com**

可愛らしい赤い車体のストリートカーも便利なので一度は乗りたい。1回券1.25\$で、3\$の1日券がある。セント・チャールズ線のみ古いモスグリーン色の電車が走る。詳細は**www.norta.com**

Greater New Orleans

ケイジャンとクレオール文化が凝縮された街

北のポンチャートレイン湖と、大きく弧を描いた川ミシシッピに挟まれたニューオリンズは、その地形から「クレセント・シティ（三日月の街）」とも呼ばれる。フランスやスペイン、カリブ海の文化が溶け込んだクレオール文化の色が濃く、自由でコスモポリタンな雰囲気が漂う。中心となるフレンチ・クォーターは本来「ビュ・カレ（古い区画）」と呼ばれ、スペイン時代の街並みが残り、ルイジアナの魅力が凝縮されている。**New Orleans Convention & Visitors Bureau / www.neworleanscvb.com**

Walking in Vieux Carre

フレンチ・クォーター（ビュ・カレ）を歩く

ジャクソン広場 Jackson Square

川辺に近いビュ・カレ散策の拠点。1815年のニューオリンズの戦いに勝利し、第7代大統領となったアンドリュー・ジャクソンの騎馬像が中央にあり、1851年に完成したセントルイス大聖堂が、ともに州立博物館となっている司教館とカビルド（スペイン統治時代の政庁）を左右に従えて聳えている。観光馬車の発着所で、画家たちが作品を並べ、ジャズ・グループの演奏に出合える。



広場でジャズを披露するグループ



大聖堂の尖塔はビュ・カレの象徴

カビルド Cabildo

スペイン統治時代の政庁として18世紀末に建てられ、現在は州立博物館の一部。ルイジアナの歴史、民俗に関する展示が中心となっている。第2次米英戦争となったニューオリンズの戦いの資料、ナポレオンのデスマスクやアルプス越えを描いた騎馬像なども見もの。1803年にルイジアナ・パーチェスの式典がここで行われた。

www.crt.state.la.us/louisiana-state-museum



ジャクソンが率いた軍の装備の展示



パイオニアたちの必需品コンパス

バーボン通り Bourbon Street

ネオン輝く通りはビュ・カレの代名詞のような存在。ジャズやブルース、ケイジャンなど音楽クラブが多く、ストリート・パフォーマーたちが活躍する通り。作家たちが好んだというバーの「オールド・アブサン・ハウス」や「ラフィットの鍛冶屋」、小泉八雲が住んだ家などもこの通りにあり、ジャズの殿堂「プリザベーション・ホール」(www.preservationhall.com)は交差するチャールズ通りにある。



通りの向こうにはCBDのビル群が



昼夜を問わず音楽が流れるバーボン通り

ムーン・ウォーク（川岸遊歩道） Moon Walk

ジャクソン広場から川辺へ。ミシシッピの堤防に築かれた遊歩道「ムーン・ウォーク」がある。川の右手（上流）に向かい公園やリバー・ウォークへと続き、ストリートカーが並行して走っている。川岸はディナー・ジャズや短いリバー・クルーズを行うナッチェスやクレオール・クイーンなど外輪船の発着場で、外洋の大型クルーズ船や対岸へのフェリー発着場ともなっている。



ムーン・ウォークのジョガーたち



クレセントシティ・コネクションを背景に

司教館 Presbytere

セントルイス大聖堂に向かって右側。1791年の再建時に左のカビルドと同じデザインに統一された司教たちの宿舎だった建物。現在は州立博物館（ジャクソン広場に面したカビルド、司教館、1850/ハウスの3カ所と、旧造幣局などで構成）の一部となっている。1階は「ハリケーン・カトリナ&リタ」に関する展示、2階は「マルディ・グラ」の展示となっている。**www.crt.state.la.us/louisiana-state-museum**



マルディ・グラの展示コーナー



ハリケーンの被害と復興の展示

オーデュボン・アメリカ水族館 Audubon Aquarium of the Americas

キャナル通りが終わる川辺の広場にある南北アメリカ大陸の水生動物を集めた水族館。ミシシッピ川をはじめ、アマゾンやカリブ海、メキシコ湾などの珍しい魚類なども多く、白いアリゲーターも。展示の素晴らしさと併設されたIMAXシアターなどから評価が高い。名前はジョン・ジェームズ・オーデュボン(1785年〜1851年、北アメリカの鳥類を細密に描いた『アメリカの鳥類』で知られる画家・鳥類研究家)に由来する。www.auduboninstitute.org



川辺でひととき目につく水族館の外観

旧造幣局 Old U.S. Mint

アメリカ合衆国のコイン製造所だったギリシャ復古様式の建物。現在は州立博物館の一部として1階にコイン製造関連の展示、2階は「プリザベーション・ホール」についての展示が行われているほか、コンサート・ホールとしても使われている。
www.crt.state.la.us/louisiana-state-museum



プリザベーション・ホールに関する展示

Central Business District セントラル・ビジネス・ディストリクト (CBD)



国立WWII博物館の戦闘機の解説つき展示風景

ビュー・カレからキャナル通りを隔て、近代的な高層オフィスビルやホテル、コンベンション施設が立ち並ぶ地区。ストリートカーのセント・チャールズ線が、リー・サークルを回ってガーデン・ディストリクトに向かっている。シュガーボウルで知られる世界最大の室内スタジアムの**スーパードーム**(www.superdome.com)やセントラル駅がある。

ビュー・カレからキャナル通りを隔て、近代的な高層オフィスビルやホテル、コンベンション施設が立ち並ぶ地区。ストリートカーのセント・チャールズ線が、リー・サークルを回ってガーデン・ディストリクトに向かっている。シュ

Garden District ガーデン・ディストリクト

キャナル通りから直角に延びるセントチャールズ通りを走る路面電車は、オークの並木が繁るアップタウンへと入る。19世紀初頭で大農園主が競うように建てた邸宅が残る高級住宅地で、アンテバラム(南北戦争前)の邸宅には美しい中庭が多いことから呼ばれる。ロヨラ大学や、小泉八雲にも縁のある名門チューレン大学がある。

ルイ・アームストロング公園 Louis Armstrong Park

ビュー・カレの川と反対側にある広い公園の名前は、ニューオリンズが生んだジャズ・ヒーロー、ルイ・アームストロングに因む。一角の「コンゴ広場」は、かつて黒人たちが休日に手製の楽器で歌い、踊り、ジャズ発生の源になったと伝えられる広場。



広場に立つ「サッチモ」の像



コンゴ広場の様子を描いたレリーフ

セントルイス墓地No.1 St. Louis Cemetery No. 1

ルイ・アームストロング公園のすぐそばで、ブードゥーの女王マリー・ラボーの墓所もある。土地が低い湿地に築かれたニューオリンズは地下に埋葬出来なかったため、地上にレンガや石造りの墓室を建てて遺体を埋葬したため「死者の街」が出来上がった。



白い街並みを思わせる墓地

リー・サークルに近くの広い区画を占める**国立WWII博物館 (The National WWII Museum)**は、第2次世界大戦を伝える博物館。ボランティアのガイドが常駐。現在3つのパートから成り、拡張計画が進んでいる。対日戦線のコーナーでは日米の武器の比較や戦況、原爆投下などが詳細に展示されている。

www.nationalww2museum.org

現代美術センター**Contemporary Arts Center**、南北戦争博物館**Civil War Museum**、南部の芸術家と南部を表現した作品を集めた**オッジェン美術館 Ogden Museum**なども隣接している。

川寄りの地域は**ウエアハウス／アーツ・ディストリクト Warehouse Arts District**と呼ばれる旧倉庫街。再開発で高級アパートやコンベンション施設が建てられる一方、芸術家たちが住み、ニューオリンズのモダンアート発信地になっている。川辺のポート・オブ・ニューオリンズ・プレイスの**マルディ・グラ・ワールド (www.mardigrasworld.com)**では巨大な倉庫で製作されるパレードのフロート(山車)などを見ることができる。



オークの並木が美しい

Greater New Orleans

Riverboats, Cruises and Swamp tours

リバーボートとクルーズ、そして郊外ツアー

ニューオリンズは外輪蒸気船のリバークルーズやカリブやメキシコ湾に向かう大型客船による外洋クルーズの拠点でもある。またプランテーション・ハウスやスワンプなど近郊へのさまざまなクルーズのツアーでは市内とはひと味異なるルイジアナの文化・自然が味わえる。

リバーボート&クルーズ

Riverboats & Cruises

パドルと呼ばれる外輪を伴った船のナッチェスとクレオール・クイーンが、ディナー・ジャズ・クルーズや1815年の「ニューオリンズの戦い」の古戦場などを訪ねるクルーズを行っている。

アメリカン・クイーンやクイーン・オブ・ミシシッピなど、外輪船でのリバークルーズはマーク・トウェインの時代にタイムスリップしたような旅が満喫できる。揺れがないこと、常に岸辺が見えるクルーズは家族連れや船が苦手な人にも安心できる。一方、カーニバルやロイヤル・カリビアンは、カリブ海などの外洋クルーズに向けて出発する。

www.steamboatnatchez.com

www.creolequeen.com

www.americanqueensteamboatcompany.com

www.americancruiselines.com

www.carnival.com

www.rccl.com

www.ncl.com



係留されたクレオール・クイーン



リバークルーズに向かう蒸気船のアメリカン・クイーン



カリブ海へ向け出航するカーニバル・イレーション号

インスタゲーター・ランチ&ハッチェリー

Insta-Gator Ranch & Hatchery

ポンチャートレイン湖の北岸、コヴィントンにあるインスタゲーターは、アリゲーターの養殖場。自然界でのふ化率が低いアリゲーターを保護するため、ふ化して健康体を自然に戻す。これらのプロセスを見学し、ふ化や赤ちゃんアリゲーターとのペッティングが体験できる。内容は季節により限定されるが、餌付けなどは通年見られる。

www.insta-gatorranch.com



時期により、赤ちゃんアリゲーターに触れることができる



上) ゼロメートル地帯の不思議な景観をボートで訪ねる

下) ミステリアスなスワンプは多様な野生動物の楽園

スワンプ・ツアー

Swamp Tours

浅瀬に生えるサイプレスの枝に鬱蒼と付いたスパニッシュ・モス。陸と水辺の区別すら判然としない不思議な世界。ボートの気配に目だけ水面に出して静かに近くアリゲーターやヌートリア、そしてブルー・ヘロン、スプーンビルなど珍しい鳥や動物との出会いがあるスワンプは、ルイジアナならではの独特な自然。ケイジャン・エンカウンターズなどが半日程度のスワンプのツアーを催行しており、赤ちゃんアリゲーターとのペッティングなども体験できる。

www.cajunencounters.com

ユニークなMICE向きアイテム

ルイジアナにはMICEに適した素材が多く、ユニークな企画の立案が容易だ。外輪船のナッチェス、クレオール・クイーンともに、ジャズ・クルーズなどのチャーターが可能で、ナッチェスはワーフ（埠頭施設）のレンタルも行う。

2階建てバスのシティ・サイトシーイング・バスも70名までのチャーターが可能（最低3時間）、また路面電車のセント・チャールズ線のチャーターでは、食器の制約はあるが飲食物が持ち込める。プランテーション・ハウ

スでのディナーも着目したい。

ウエアハウス／アーツ・ディストリクトにあるマルディ・グラ・ワールドは巨大なマルディ・グラのプロート（山車）展示や製作過程の見学、キング・ケーキなどマルディ・グラ体験が通年可能で、イベントに使えるバンケット施設を備えている。

ニューオリンズ・スクール・オブ・クッキングなど、グループ向けの料理教室もあり、体験型の企画に向く。

www.neworleansschoolofcooking.com *各URLは前掲を参照



過酷な環境が育んだ人生を楽しむ文化

ルイジアナ州のほとんどはミシシッピが運んだ、シルトと呼ばれる細かい沈泥によって築かれた肥沃な沖積地帯で、果てしない湿地が広がる特異な自然環境にある。恵みをもたらす緩やかな流れを、先住の人々はバイユーと呼んだ。都会を離れ、その豊かな自然と、そこに生まれ育まれた文化に触れる時、ルイジアナの真の姿が見えてくる。

Plantation Country プランテーションカントリー

ルイジアナの州都バトンルージュを中心に、曲がりくねったミシシッピに沿ってリバーロードと呼ばれる州道が走り、点在するプランテーション・ハウスは、アンテベラム（南北戦争前）の栄華とオールドサウスの遺産を伝えている。

プランテーション・ハウス Plantation Houses

南北戦争以前の1800年代には、川に沿ってサトウキビなどのプランテーションが豪華な邸宅を構えていたが、南北戦争で多くが破壊され、放置された。破壊をまぬがれ、修復されたプランテーション・ハウスには公開されているものもあり、レストランや宿泊設備を備えているものもある。ミシシッピに沿いのリバーロードを辿りプランテーションを訪ねてみよう。下記は、主な人気のプランテーション。



本格レストランも備えたノッタウェイ・プランテーション



ローラ・プランテーションは当時の姿を留める 保存されているスレイブ・キャビン



ホウマス・ハウスの朝食用ダイニングルーム

- **オークアレイ・プランテーション Oak Alley Plantation**
樹齢300年を超す38本のオークの並木が印象的。 www.oakalleyplantation.com
- **ローラ・プランテーション Laura Plantation**
クレオール様式のプランテーション・ハウスで、トップ・ルイジアナ・トラベル・アトラクションに選ばれている。 www.lauraplantation.com
- **サンフランシスコ・プランテーション San Francisco Plantation**
贅を凝らした装飾に目をひかれる。邸宅建設に全財産をつぎ込んだオーナーが、完成直後に他界したというエピソードが残る。 www.sanfranciscoplantation.org
- **ノッタウェイ・プランテーション Nottoway Plantation**
南部最大と言われる規模のプランテーション・ハウスで、ギリシャ復興様式の美しい建物。 www.nottoway.com
- **ホウマス・ハウス・プランテーション Houmas House Plantation**
豪華な内装で知られ、女優ベティ・デイビスが映画撮影中に滞在した部屋がそのまま残されている。 www.houmashouse.com
- **デスターハン・プランテーション Destrehan Plantation**
ニューオーリンズ空港に近く、州間高速道路 (I-10) からのアクセスも容易。ルイジアナの歴史上重要な「ジェファーソン文書」が保存されている。 www.destrehanplantation.org

スパニッシュ・モス Spanish Moss

大きな樫の古木などに鬱蒼と下がるスペイン苔は、ルイジアナの湿地帯をよりミステリアスに感じさせる舞台装置。しかしスペインとも苔とも縁のない「エア・プランツ」の仲間で、寄生せず空気から養分を得ている。これを採集して天然のクッションなどに利用したのは昔話になった。



Baton Rouge

バトンルージュ

ミシシッピ河畔の街、州都バトンルージュは人口およそ23万、大学の町でもある。1699年にフランス人が入植。先住のホウマ族とバイユー・ゴウラ族が猟場の境界に立てた赤い棒から、フランス語でバトンルージュと命名された。緑に包まれ、新旧の建物が融合して瀟洒なたたずまいを見せ、川岸に遊歩道が整備されている。

www.visitbatonrouge.com



落ち着きを見せるバトンルージュの街並み

州議事堂 State Capitol

1932年に建てられた34階の州議事堂はアメリカ合衆国で最も高く、街の象徴。27階に展望所があり、壮大なミシシッピと街のパノラマが一望となる。お城のようなたたずまいを見せミシシッピを望む旧州議事堂川辺の通りに面し、1847年に建てられたゴシック・リバイバルの旧議事堂 Old State Capitalがあり、現在は政治の歴史博物館になっている。



ルーラル・ライフ博物館 Rural Life Museum

町の南、州立大学が管理するバーデン・ミュージアム&ガーデンズの一部を占め、移築された多数の家屋や教会などがある野外博物館。家具、農具などを展示、19世紀のレイジアナの生活を伝えている。

www.discoverburden.com



↑ベッドが置かれた一間だけの家
◆典型的なアケイディアン・ハウス

キャピタル・パーク博物館 Capitol Park Museum

移転した州立大学の跡地で州議事堂前の緑地帯にあり、2006年にオープン。レイジアナの自然や歴史、生活、文化、産業を伝える博物館。1階には川と生活の展示に重点が置かれ、エビ漁船などを展示。2階のマルディ・グラの展示も素晴らしい。

www.crt.state.la.us/louisiana-state-museum



文化が中心の2階展示場入り口に巨大なザリガニ



歴史と生活に重点が置かれエビ漁船もある1階の展示

アチャファアラヤ・ナショナル・ヘリテージ・エリア

Atchafalaya National Heritage Area

先住民の言葉で「長い川」を意味するアチャファアラヤ。シムズポート Simmesportから南のメキシコ湾にいたる140マイルに及ぶ川沿いのアチャファアラヤ・ベイスンは、広さ100万エーカーに及ぶアメリカ国内最大の湿原地帯で、14の郡が含まれている。アメリカで最も豊かな文化と多様な生態系を持つ地域として、06年ナショナル・ヘリテージとして登録された。アチャファアラヤ川はかつてレッド川下流に属し、ミシシッピとの合流付近は流木で埋まり、蒸気船を改造してこれを除去した。www.atchafalaya.org



見渡す限りのバイユー地帯は豊かなレイジアナ文化の源

St. Francisville

セント・フランシスビル

バトンルージュの北、ウエスト・フェリシアナ郡最古の街で「長さ2マイル、幅2ヤードの町」と呼ばれる小さな街で、クレオール文化の香りが少なく「イングリッシュ・レイジアナ」とも呼ばれる。川岸にあった集落バイユー・サラは綿花の積出港として栄えたが、南北戦争での破壊と川の氾濫で消えてしまった。1800年代の建物が多く目につき、郊外にはオーデュボンのアトリエが残るオークレイ・プランテーション、レストランの評価が高いB&Bで幽霊屋敷としても人気のマートルズ・プランテーション、入り口に続くスペイン・モスのアーチが印象的なローズダウン・プランテーションなど、アンテベラム（南北戦争前）の建物が多く残る。www.stfrancisville.us



ビクトリアン・ゴシックのB&B



人気の店「グランドマザーズ・ボタン」

Cajun Country ケイジャンカントリー

メキシコ湾に面し、広さはアメリカ最大といわれる湿地帯が広がる州南西部のほとんどを占めるバイユー・カントリー。フレンチ・インディアン戦争とも呼ばれる1755年の英仏戦争の結果、カナダ北東部のアケーディアから移住した人々の子孫が多く住み、ケイジャン・フランス語を話し独特なケイジャン文化を築いた。

Lafayette ラファイエット

人口およそ11万2000の街ラファイエットはケイジャン文化の中心地で「フレンチ・ルイジアナの首都」とも呼ばれる。1821年の創設時はヴァーミリオンと呼ばれたが、1884年、独立戦争に加わったフランスの貴族ラファイエットに因んで命名された。ダウンタウンの広い区域を州立大学ラファイエット校のキャンパスが占め、ボールド・サイプレスが並木をつくるジェファーソン通りにはライブ音楽の店が並ぶ。
www.lafayettetravel.com

ヴァーミリオンビル Vermilionville

ケイジャン、クレオール生活を伝える野外博物館。バイユー・ヴァーミリオンの川辺の敷地23エーカーに、移築・復元した民家や商店、教会などがあり、生活が再現されている。バイユー地帯の奥に移植したケイジャンの生活が再現されている無料の料理講習会やケイジャン、ザディコの演奏も行われ、レストランなども充実。地域の文化センターの要素も備えている。
www.vermilionville.org



バイユー地帯の奥に移植したケイジャンの生活が再現されている

セント・マーティンビル St. Martinville



川岸の老木「イヴァンジェリンのオーク」

小さな町だが、フレンチ・インディアン戦争の結果カナダから移住したアケーディアン（のちケイジャンと呼ばれるようになる）が、バイユー・テッシの岸辺に第一歩を記したと伝えられる町。詩人ロング・フェローが、移住の実話をもとに悲恋叙事詩「イヴァンジェリン」を書いた。川辺にフェローの胸像とイヴァンジェリン・オークと呼ばれる大きな榎の木がある。
www.cajuncountry.org

Houma ホウマ

湿地帯をゆったりと進む
スワンプ・ツアー



ブロー・ブリッジ Breaux Bridge

バイユー・テッシ沿いの小さな町だが「世界のクロウフィッシュ・キャピタル」と呼ばれる。バイユーとは「緩やかに流れる川」を、テッシは「蛇」を意味する先住民の言葉。近隣のライブ音楽の店には、ダンスを楽しみに人々が集まる。ザリガニと音楽の町である。

外観が赤い大きなバーン（納屋）のクロウフィッシュ・タウンUSAはマーケットを併設し、オーセンティックなケイジャン料理で人気のレストラン。自慢のボイルド・クロウフィッシュの本格シーズンは春から。
www.crawfishtownusa.com www.cajuncountry.org



店内にスペイン苔が下がりがライブの演奏が行われるレストラン



エトウフェーたっぷりのバムブレム

Thibodaux ティボドウ

ニューオリンズの南西約45マイルのラフォーシ郡はルイジアナ最古の郡のひとつで、その中心がバイユー・ラフォーシ河岸のティボドウ。メキシコ湾からのアクセスに恵まれ、移植したフランス、スペイン、



チャーター・ボートでカワマス、紅鮭、ヒラメ、エビなどが釣れる

ドイツ、そして先住のホウマ族との混合文化が根づいた。古い田舎のたたずまいを残しながらも、チャーター・フィッシングやエアポート・ツアーの基地として人気が高い。
www.visitlafourche.com

ニューオリンズの南西に位置し、7つものバイユーが集まる町で、近郊にはバイユーと運河がスワンプの奥深く入り組み、スワンプ・ツアーやフィッシングが盛んな地域。船着き場には独特の形をしたエビ漁船が、網を曳く棒を船尾に立てて停泊している。マルディ・グラが盛大で、その規模はニューオリンズに次ぐ。
www.houmatravel.com

New Iberia

ニュー・アイベリア

アイベリア・パリッシュの中心。ルイジアナ州では郡を「カウンティ」に代わり「パリッシュ」と呼ぶ。最初に入植したのがスペイン人だったことから、イベリア半島に因んで名づけられた瀟洒な町。メイン・ストリートにあるアンテペラムの邸宅シャドウズ・オン・ザ・テッシはナショナル・トラストのヒストリック・ハウス博物館となっている。

www.iberiatravel.com

タバスコ工場 Tabasco Factory & Country Store

アメリカ唯一の発酵調味料であるタバスコの工場見学は人気のアトラクション。10分ほどのタバスコの歴史や製品紹介のビデオ上映やボトリングの見学がある。カントリー・ストアには様々なタバスコ・グッズがあり、各種製品のテイスティングができる。 www.tabasco.com



↑カウンターに試食用のタバスコ製品が並ぶ
→工場の入り口に飾られた道具が歴史を伝える



リップ・ヴァン・ウインクル Rip Van Winkle

ペニエ湖に面した庭園と、俳優ジョセフ・ジェファークソンによって1870年に建てられた邸宅。カフェやレストラン、B&Bとなるコテージがある。所在地のジェファークソン・アイランドは「島」ではなく、岩塩鉱地帯をアイランドと呼ぶ習慣によるもの。

www.ripvanwinklegardens.com



豪華な邸宅は俳優が演じた役に因んで命名された

バイユー・ラム Bayou Rum

南北戦争前、サトウキビのプランテーションが栄華を極めたルイジアナ南部は、今もサトウキビの栽培が盛んである。2013年に発足し、アメリカでは最大のラム酒の蒸留を行っている会社がルイジアナ・スピリッツで、「バイユー・ラム」ブランドで地産の砂糖100%のラムを製造。I-10沿いにあり、テイスティングもできる無料のツアーを受け入れている。

www.bayourum.com



Lake Charles

レイク・チャールズ

レイク・チャールズは名前の由来となったチャールズ湖に面した町で、テキサスに近いルイジアナ西端に位置する。1760年代にフランス人が入植し、木材ブームで発展したが、近年はカジノCasinoの人氣が高まっている。クレオール・ネイチャートレイルの拠点でもある。

www.visitlakecharles.org

クレオール・ネイチャートレイル Creole Nature Trail

レイク・チャールズの南、ビック・レイクとも呼ばれるキャルクシュール湖の周辺には広大な湿原が広がり、野生動物の天国となっている。湖を取り巻く自然保護区などを結びながら180マイルのドライブ・コースが「クレオール・ネイチャー・トレイル」として整備され、オール・アメリカン・ロードに指定されている。レイク・チャールズの観光案内所で無料のGPSガイドを貸し出ししており、説明を聞きながらのドライブとワイルドライフ・ウォッチングが楽しめる。要所ごとに案内所及びボードウォークが設置されている。 www.creolenaturetrail.org

ネイチャー・トレイルで出会う昼寝や散歩中?のアリゲーター



↑テキサス州境にも近く、カジノの人氣も高い
→トレイルの要所に掲げられた案内標識



ゲーター・シャトー

Gator Chateau

隣接するジェファークソン・デイヴィス郡ジェニングスJenningsの観光案内所がI-10沿いにあり、アリゲーターのペッティングや餌付け見学が自由にできるゲーター・シャトーを併設している。

www.jeffdavis.org/tourism/attractions/gator-chateau.html

→無料でアリゲーターに触れることができる施設



Crossroads

クロスロード

緩やかに起伏し、緑が多く穏やかな風景が広がるルイジアナ州中部で、中心はレッド川を挟んだ双子都市のアレキサンドリアとバインビル。ルイジアナ最初の町が築かれ、1840年代には河川交通の便から移住者が増え、プランター（大農園主）たちと対立する東部の価値観も持ち込まれた。北部と南部の文化が交わる地域でもある。

Natchitoches

ナキティッシュ



レンガ舗装が美しいナキティッシュの街並み

↓復元されたサン・ジャン・バプティスト砦



↑名物のケイジャン・クレオール・ミートパイ

ケーン川の川岸の町で、ニューオリンズよりも早い1714年にフランス人が入植したルイジアナ最古の町で、サン・ジャン・バプティスト砦が再建されている。一方、大学の町らしい若やいだ雰囲気があふれ、映画『マグノリアの花たち』の舞台としても知られる美しい町である。景観に恵まれた川沿いの道に沿って、クレオールの黒人民俗画家クレメンタイン・ハンターの作品が残され、フォークナーやスタインベックなどが訪れる芸術のメッカとなったメルローズなど異色のプランテーション・ハウスが点在する。www.natchitoches.com

Alexandria アレキサンドリア

18世紀半ばにレッド川対岸のバインビルとともに交易所として興された町で、2つの町は船舶の通行用に中央部が上下する鉄橋で結ばれている。南北戦争で破壊されたが1900年代初頭に木材業の中心地として活況を取り戻した。



炉辺料理の実演などもあるセント・プランテーション

州立大学のキャンパスに移築されたクレオール・コテージのエッパス・ハウス Epps House は、実話にもとづいた映画『それでも夜は明ける』(12 Years a Slave)の主人公が実在の奴隷となっていた家。映画は第86回アカデミー賞作品賞など数々の賞を受けた。

中部ルイジアナ最古のフレンチクレオール・プランテーションのセント・ハウス Kent Plantation Houseや、町の南約22キロにあって現役の農場ながら多様なイベントにも対応するロイドホール・プランテーション Loyd Hall Plantation Bed & Breakfast などがある。

www.alexandriapinevillela.com www.kenthouse.org www.loydhall.com

Sportsman's Paradise

スポーツマンズ パラダイス

テキサス、アーカンソーと州境を接し、西部の香りが残る州北部。ギブスランドはボニー&クライド終焉の地。自然豊かでアウトドア活動に適するが、東のデルタにはコットンフィールドが広がる。

Shreveport シュリーブポート

テキサスとアーカンソー両州の州境に近いレッド川河港の町。川を埋めつくしていた流木の除去で船舶の航行を可能にし、地域の発展に貢献した蒸気船の船長ヘンリー・シュリーブに因んで命名された。1906年の油田発見で石油産業が発展したが、音楽の街としても知られ、市営公会堂は、ナッシュビルの「グランドオール・オーブリー」と並んで人気を競い、多くのスターを輩出したラジオ番組「ルイジアナ・ヘイライド Louisiana Hayride」のホーム。番組はハンク・ウィリアムスやエルヴィス・プレスリーなどのスターを送り出し、記念イベントが毎年開かれる。www.shreveport-bossier.org



かつて蒸気船が活躍したレッド川に映る街明かり



公会堂前に立つエルヴィス・プレスリーの像。彼は「ルイジアナ・ヘイライド」出演でスターの座へ駆け上った

Monroe モンロウ

1790年にスペイン人が砦を築き、綿花や製紙業で栄え、20世紀初めの天然ガスの発見で栄えた人口5万ほどの小さな町。ナポレオンとのルイジアナ購入の交渉に当たり、後に第5代の大統領となったジェイムス・モンロウに因んで命名された。ルイジアナ・パーチェス記念庭園&動物園があり、周辺には野生保護区が多い。また注目のアトラクションがバーデンハーゲン博物館&庭園で、コカ・コーラの記念品や



英国風のバーデンハーゲン庭園

初期の配送車などが並ぶコカ・コーラ博物館。ジョセフ・バーデンハーゲンが当時は画期的だったコカ・コーラの瓶詰で成功し、町に大きく貢献したのだった。

www.monroezoo.org

www.bmuseum.org

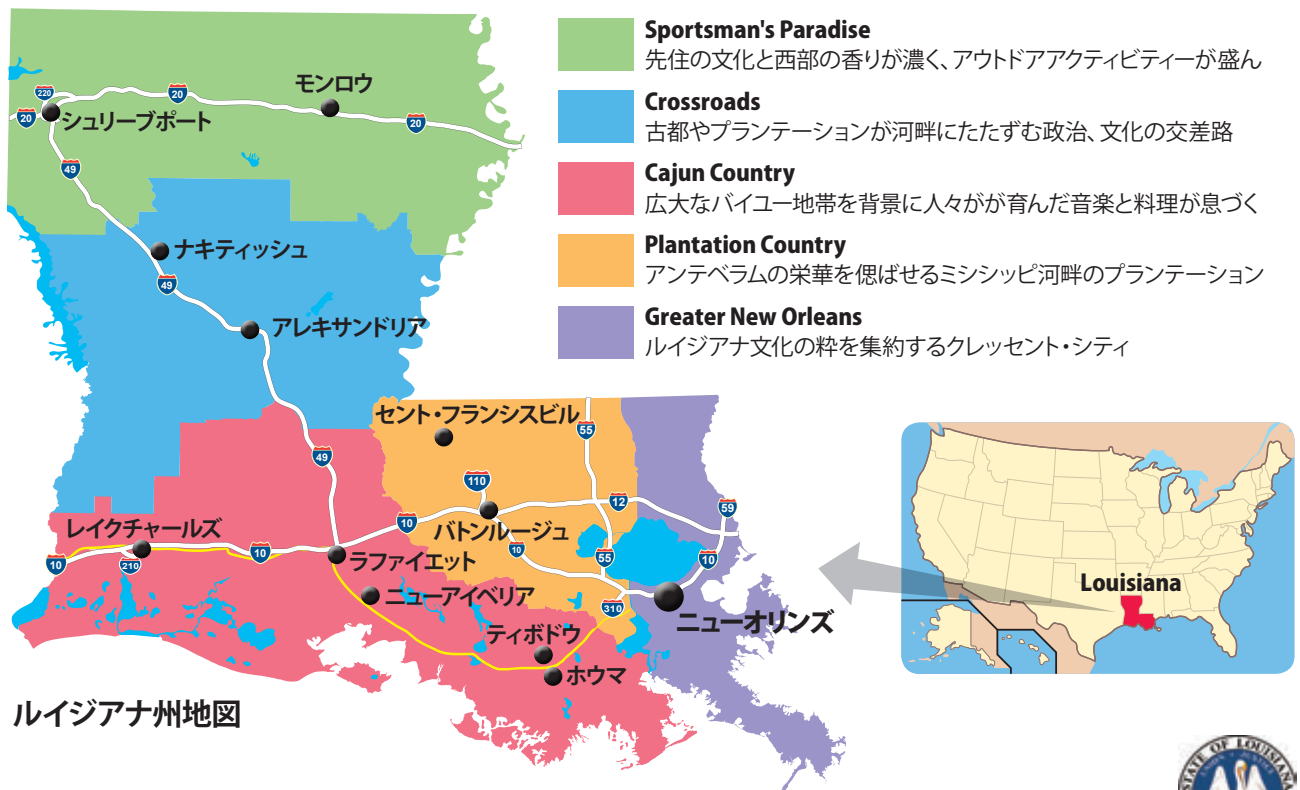
www.monroe-westmonroe.org/

イベント&フェスティバル

- Mardi Gras (1〜3月で変動)
- French Quarter Festival (4月初旬)
- New Orleans Jazz & Heritage Festival (4月末〜5月末)
- Breaux Bridge Crawfish Festival (5月初旬)
- Festival International de Lousiane (4月末)
- Festival of Lights (12月)

Louisiana & New Orleans

“ルイジアナ休暇”をとって、感動旅をしてみませんか？



ルイジアナ州 Louisiana

州 都：バトンルージュ
 州の花：マグノリア（もくれん）
 州の鳥：ブラウン・ペリカン
 州の木：ボールド・サイプレス
 州の虫：蜜蜂
 州の犬：カタフル・レパードドッグ
 州 歌：“You Are My Sunshine”
 ニックネーム：ペリカン・ステート、バイユー・ステート
 モットー：Union, Justice & Confidence
 （調和、公正、信頼）
 面 積：135,382 km²（全米第31位）
 人 口：約450万
 連邦加盟：1812年4月30日（18番目）

〈ルイジアナ小史〉

1541 スペイン人のデソ、ミシシッピ河口探検
 1682 フランス人のラサール、ミシシッピ探検。
 ルイ14世の統治領と命名
 1714 フランス人、ナキティッシュに入植
 1718 フランス系カナダ人のピエンビル、
 ニューオーリンズを創設
 1755 7年戦争（フレンチ・インディアン戦争）始まる
 1760 アケーディアンの入植始まる
 1762 フランスがルイジアナをスペインに割譲
 1763 パリ平和条約、7年戦争終結
 1800 スペインがルイジアナをフランスに割譲
 1803 アメリカがナポレオンからルイジアナを
 1,500万ドルで購入
 1810 東部地域が西フロリダ共和国となる
 1812 18番目の州として連邦加盟
 1815 アンドリュー・ジャクソン將軍、対英国の
 ニューオーリンズの戦いに勝利
 1849 バトンルージュが州都に
 1861 連邦脱退、6週間のみ独立共和国となる。
 南北戦争始まる。南部連合に復帰
 1865 南北戦争終結
 1927 ミシシッピの大洪水
 2005 ハリケーン・カトリナとリタが襲来
 2012 ルイジアナ州制200年を迎える

ルイジアナ州には観光客に対する 免税制度があり、売上税が払い戻されます

免税制度 LTFS (Louisiana Tax Free Shopping)

ルイジアナ州には外国の観光客に対する免税制度があり、売上税が払い戻される。
www.louisianataxfree.com 手続きは、

- 1 米国以外の有効なパスポートと、90日以内の外国からの往復航空券を持っていること。
- 2 LTFS加盟の店（ロゴ参照）で購入。
- 3 買物の際、パスポートを提示し、店から税金払い戻し票（Tax Refund Voucher）を発行してもらいレシートと合わせて保管。
- 4 ニューオーリンズ空港またはリバーウォークのアウトレット・コレクション The Outlet Collection at Riverwalk 2階のリファインドセンターで、上記の書類とパスポートを提示し、手数料を差し引いた税金の払い戻しを直接受ける。500ドル以下の払い戻しは現金で、超える場合は自宅住所に小切手が郵送される。

払い戻しセンターで手続きできない場合、郵送で申請ができる。その場合、税金払い戻し票、レシート、航空券とパスポートのコピーに払い戻しセンターで受け取れなかった理由と購入商品が現在どこにあるかを述べた手紙を添え、下記に送る。

Louisiana Tax Free Shopping Refund Center

P.O. Box 20125, New Orleans, LA 70141
 Tel: 504-467-0723 Fax: 504-471-2777
 E-mail: LTFSrefundinfo@bellsouth.net

